



みんなの笑顔が輝く 安心のまち ~ あなたの郷 くしろ町 ~  
**釧路町**



釧路町基礎データ

総人口	19,171人 ※R3年10月末	漁獲高	2,444百万円 ※R1水産統計(北海道水産現勢)
高齢人口	5,767人 30.1% ※R3年10月末	製造品出荷額等	11,648百万円 ※「2020年工業統計表」
世帯数	9,623世帯 ※R3年10月末	卸・小売年間販売額	66,185百万円 ※H28経済センサス
人口密度	75.5人/km <sup>2</sup>	一般会計規模	8,933百万円 R3年度当初予算額
面積	254.15km <sup>2</sup>	町の花	クシロハナシノブ
農業産出額	1,130百万円 ※R1市町村別農業産出額	町の木	エゾノコリンゴ
		町の鳥	エゾフクロウ

釧路町の紹介

釧路町は、北海道の南東部、釧路管内の南部に位置し、東は厚岸町、西は釧路市、南は太平洋、北は標茶町に接しています。釧路町には合併、分村の歴史があり、大正8年(1919年)に昆布森村、跡永賀村、仙鳳趾村が合併し昆布森村となり、大正9年(1920年)に現釧路市である釧路町から分村し釧路村ができました。昭和30年(1955年)に昆布森村と釧路村が合併し新しい釧路村となり、昭和51年(1976年)に人口1万人を超え、昭和55年(1980年)に町制を施行し現在の釧路町となりました。

夏は平均気温が18度と冷涼で、冬は寒冷ながらも北海道の中では雪が少ない地域のため、1年を通して過ごしやすい気候なのが特徴です。また、釧路外環状道路釧路東ICや釧路別保ICの開通に加え、令和6年(2024年)度開通予定の道東自動車道阿寒ICから釧路西IC区間の延伸により、道内外からのアクセスもより一層便利になる予定です。

町内には、イタリアのミラノ万博に出店し、北海道で唯一『本場の本物』に選ばれた、身薄で柔らかいことが特徴の「さおまえ昆布」

をはじめ、時鮭(トキシラズ)、仙鳳趾(せんぼうし)産牡蠣などの魚介類のほか、肌が白くなめらかで、綺麗な見た目と噛んだ時に



一年中食べられる「仙鳳趾(せんぼうし)産牡蠣」



果物のような甘さを感じる「釧路ほくげん大根」

果物のようなみずみずしさや甘さが感じられるのが特徴の「釧路ほくげん大根」、白かぶ、トウモロコシなどの特産品があります。別保公園内にある釧路町地産地消センター「ロ・バザール」で購入できるほか、併設しているレストランでは、地場産品を使用した様々なメニューが味わえます。仙鳳趾産牡蠣を使用したカキフライ定食やカキボナーラは、特に人気があります。



仙鳳趾（せんぼうし）産牡蠣を使用した「カキボナーラ」

## 『湿原と海岸線』 2つの自然公園 が楽しめる町

釧路町は、国内28番目に指定された国立公園である「釧路湿原国立公園」を有しており、湿原面積は国内最大です。湿原内には、特別天然記念物のタンチョウをはじめ希少種の動植物も数多く生息しており、原始の姿を現在



日本一の展望台「細岡展望台」から見た釧路湿原

にとどめる景観やその生態系は、観光客のみならず世界中の研究者や科学者の注目と関心を惹き付けています。また、釧路湿原を一望できる「細岡展望台」は、大手旅行口コミサイトで「旅好きが選ぶ！日本人の人気の展望台&公園ランキング2020」で、日本中の数ある展望台の中から第一位に選ばれており、まさに「日本一の展望台」として広く認められたところです。どこまでも広がる釧路湿原の中を大きく蛇行する釧路川と、天気が良くて空気が澄んでいる日には、阿寒の山々から羅臼岳までを一望できる景勝地です。また、日本一遅い列車「くしろ湿原ノロッコ号」や「SL冬の湿原号」は細岡展望台近くの釧路湿原駅に停車するため、釧路駅からのアクセスにも優れています。

釧路町の雄大な自然は、釧路湿原にとどまらず、太平洋を望む南側の海岸線は、十勝管内の広尾町から続く「北太平洋シーサイドライン」を形成し、根室市の納沙布岬へとつながっています。北太平洋シーサイドラインの観光ハイライトとなる釧路町・厚岸町・浜中町の海岸線は、「岬と花の霧街道」の愛称で親しまれ、風光明媚な観光ルートとして知られています。令和3年（2021年）3月には厚岸霧多布昆布森国定公園が新たに指定され、自然を活かした観光振興や地域への誘客による経済効果とあわせ、自然環境の保全・共生を図っていくためにも、関係機関、関係団体との連携をさらに強化し、国定公園にふさわしい整備が地域全体で図られることにより、発信力やおもてなし力が底上げされることが期待されています。国定公園として前身の厚岸道立自然公園の区域外で新たに指定された地域に「来止臥（キトウシ）」があり「来止臥野営場」は、海の眺めが最高に良い丘の上のキャンプ場で、静かでゆっくりとした時間が流れる穴場スポットです。限りなく広がる海と霧や夕日の風景で最高の気分を味わえるだけでなく、「シロ岩」、「立岩」、「トド岩」



「来止臥（キトウシ）野営場」と海岸線

などの彫刻的な美しさが壮観な奇岩を見ることもできます。

また、「十町瀬（トマチセ）」では、昭和43年（1968年）に古第三紀（およそ6,600万年前から2,303万年前）の地層から産出される化石としては日本でも数少ない哺乳類（バク類の上あご）の化石が産出され、発見地にちなんで「クシロムカシバク」と名付けられており、現在は釧路市立博物館に収蔵されています。

今後は、新たな国立公園として広く全国へPRを行い、関係人口の増加を目指すとともに、アフターコロナを見据えた誘客と、それに伴う経済効果を目指した取り組みを推進していきます。

## 釧路町の取り組み

釧路町は、人口減少対策、地域課題の解決と将来にわたって町民が安心して働き、出産、子育てをすることができる地域社会を構築するために、「まち・ひと・しごと創生釧路町総合戦略」を策定し、持続可能なまちづくりを目指した施策を進めているほか、令和4年（2022年）からスタートする第6次釧路町総合計画では、「未来につなぐ豊かな自然といきがいあふれるまち」を目指す中で、SDGsの視点を取り入れています。令和3年（2021年）12月には、2050年に二酸化炭素実質排出

ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明し、目標に向けた取り組みなどを施策の方針にも掲げ取り組んでいます。

また、釧路町の魅力を国内外に発信するため、釧路町の出身者やふるさと納税による寄付者など町外在住者を対象とした、「釧路町ふるさと応援団」を結成し、応援団員を募集しています。SNS等で釧路町の歴史や文化、食や自然など魅力のある地域情報などの発信や応援活動にご協力いただき、さらなる関係人口の創出・拡大に取り組んでいます。

最後に、町の基幹産業である漁業が中心の昆布森地区では、令和3年（2021年）9月に発生した赤潮により甚大な被害を受けており、特にウニは9割が死んでしまい、釧路町にとって前例のない大きな被害となっています。ウニの生産には、稚ウニの放流、育成、出漁、加工及び出荷という3年以上にもわたる生産サイクルが必要であり、その全てが破壊されてしまった状況にあります。



赤潮被害で9割が死んでしまった昆布森のウニ

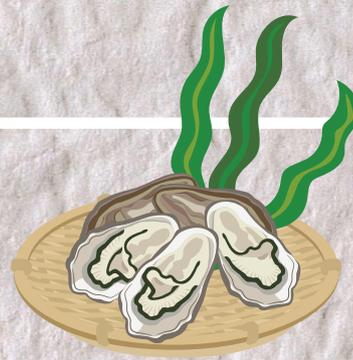
現在、釧路町の昆布森で必死に取り組む漁業者に対して、ふるさと納税を活用した寄付金の受付も実施しているところです。

今回の困難を乗り越え、いつかまた、昆布森で育ったエゾバフンウニを全国にお届けできるよう取り組んでいきます。

# 釧路町の四季



【春】別保公園の桜



【夏】釧路川でのカヌー



【秋】細岡展望台からの夕日



【冬】長ぐつアイスホッケー